

巻頭言

理事長・院長あいさつ

医療法人社団英明会　大西脳神経外科病院
理事長・院長　大西宏之

当院は 2000 年にこの明石の地に開院して、昨年で丸 25 年が経過しました。その間、脳神経外科の専門病院としての確固たる地位を築くとともに、地域の皆様にも信頼され着実に発展してまいりました。また 2023 年に新体制となってから丸 3 年が経ち、色々と戸惑いもある中、なんとかスムーズに移行することができ一歩ずつ着実に診療実績を伸ばすことができております。これもひとえに、皆様方の日頃のご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

さて、当院の 25 年の歩みを振り返ってみますと、2000 年 12 月に 82 床でスタートした当院ですが、救急医療体制の整備から始まりました。今では当たり前になっていますが、救急隊との病院前脳卒中スケール(プレホスピタルレコード)をいち早く導入し、24 時間 365 日 MRI が撮影できる環境を整え、多くの脳神経疾患救急症例を対応する中で飛躍的に症例数を増やすことができました。その後も 2006 年には 7 対 1 看護を開始し、2007 年には SCU の稼働、電子カルテを導入するなどして、同年医療法人社団英明会として新たなスタートとなっています。2013 年には許可病床を 122 床まで増床し、今の南館を新たに増築し手術室は 4 室、MRI も 4 台まで拡張することとしました。2016 年には集束超音波治療機器(エキサブレートニューロ)を導入し機能外科がスタート、各病棟をセンター化することで専門性の高い医療を追求することとしました。2017 年には回復期リハビリテーション病棟(31 床)を新た設け、当院でも回復期医療が始まりました。その後、コロナ禍となり、病棟運営で苦労することが多々ありましたが、ただ不測の事態にも柔軟に対応できる組織力が育まれていったように思います。そして昨年 2025 年は回復期病床増床(計 60 床)、病院機能評価(3rdG:Ver.3.0)の受審、電子カルテの入れ替えといった取り組みを行いました。このようにこの 25 年で当法人は大きく成長することができましたが、東播磨地域の方々に対して医療法人とし

て、病院として、今後どのように貢献していくのか将来的なことを見据え新体制のもと新たな取り組みを推進しています。その柱として、「医療安全・危機管理体制の強化」「人材の育成・確保」「最先端医療技術の向上」の三点を掲げております。「医療安全危機管理対策」では、院内に医療安全文化を根付かせ、風通しの良い組織風土へと改革し医療の質向上に努めています。「人材育成」に関しては人材育成と人材獲得の両面でアプローチしています。人材育成については、新人教育、ドクター教育、次世代のリーダー層の育成、というところを中心に、教育カリキュラムの見直しや院内勉強会の充実を図るようにしました。今後は、次世代のリーダー層の育成を強化し、経営層と共通認識を持って、病院の発展のために広い視野で行動できる人材をより多く育てていければと考えています。一方、人材獲得においては、人材派遣に頼ることなく自前で人材獲得ができるようなシステム作りを行いました。新卒者の獲得、既卒者の獲得、また、離職防止に向けた内部環境の改善チーム、という３本柱でプロジェクトを進め、ようやく軌道に乗り人材派遣会社に依存することなく自前でリクルートをして人材育成ができるようになってきています。そして最後に「最先端医療の技術向上」においては、基盤となる脳神経外科医療の質向上はもちろんのこと、昨年は新しい電子カルテやスマートフォンを導入し、医療 Dx を視野に入れた業務効率改善に努めております。

最後に法人としての取り組みとしては、急性期医療だけでなく、回復期や在宅医療などより一層の医療体制の充実を図り、高齢者の皆様が安心して暮らせる地域づくりを目指していきたいと考えています。2026 年 3 月に脳卒中と循環器病克服第三次五カ年計画が発表されましたが、その中でも特に脳卒中においては急性期医療の進歩により在宅復帰率が向上しているものの、重度の後遺症を残し長期的な慢性期医療やケアが必要な患者も多く、地域の中で多職種が連携し患者サポートをすることが強調されています。そこで当院としてもこの東播磨医療圏において、急性期医療だけでなく、回復期、在宅期までを包括的に管理しサポートできる体制を整えてまいりたいと考えています。



このように当院ではさまざまな取り組みを行なっていますが、この年報は、これまでの道のりや今後の展望を示すとともに、私たちが未来に向けて向かう姿勢をまとめたものですので、ご高覧頂けましたら幸いです。